

本質的な問い 「自然災害」とわたしたちの生活の関わりとは何だろうか？

単元名 「つなごう 西日本豪雨災害を」

児童生徒の実態

4年生に至るまでに、毎年、「自然災害と防災」についての学習をしてきているが、自分事としての捉えが不十分で、生活に生かすことが十分でなかった。この地域を襲った「平成30年豪雨」（西日本豪雨災害）は、当時、年長だった児童にとって自分が体験した災害ではなく、過去にあった出来事であり、どんな被害があり、何が大変だったかを深く知ってはいない。つまり、生活経験や既習の知識を基に自分の考えを導き出したり、表現したりすることが難しい。しかし、地域の人々や家族、友達とつながりながら学習することは進んで行う児童が多い。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

調査を様々な方法で実施し、自然災害や防災について知るとともに、自助・公助・共助の考え方が連動していることや、生活と関わっていることを理解している。また、より多くの命を守ることと防災の重要性への認識の高まりは、自然災害や防災と生活との関係を探的に学習してきた成果であると気付いている。

より多くの命を守ることや防災の在り方について、課題を設定し、解決に向けて自分達にできることを見通している。そして、必要な情報を調査する対象に応じた方法を選択し収集し避難行動や防災に必要な情報を取捨選択・比較・関連付けながら、解決に向けて考え、資料でまとめ、表現している。

自然災害や防災に関心をもち、進んで探究的な学習に取り組もうとしている。また、調査等で得た知識から、協働して課題解決に取り組もうとしている。そして、自然災害や防災と自分達の生活との関わりに気づき、自分の命を守る行動の重要性を訴えようとしている。

単元を貫く問い 「西日本豪雨災害」から学んだことで自分達の命や生活を守るために何ができるかな？ 【探究課題 自然災害から命や生活を守るための取組】

【第4・5次】（7時間）

課題 自分たちが調べたことを保護者や地域に伝えよう！

個別の問い

- 発表会に向け、みんなでよりよい発表にしよう。
分かりやすく伝えるには？
保護者に伝えよう。
地域に伝えよう。

保護者

地域の方々

(しかけ) 学習発表会での発表などを通して、自分達の学習が、防災の重要性への認識の高まりにつながり、より多くの命を助けることになることに気付く。

【第3次】（9時間）

課題 自然災害から人々の命や生活を守るにはどうしたらよいだろうか？

個別の問い

- 西日本豪雨災害を知った今、一人でも多くの命を守るためにどうしたらよいだろうか？
だれに、何を、どんな方法で伝えたらよいか？
グループ別で調べよう。
わかりやすく伝えるには？
よりよい発表にするには？

県や市の取組

県や市の取組

(しかけ) 社会科「自然災害からくらしを守る」理科「地面を流れる水のゆくえ」で学習したことを生かし、今まで調べたことから、一人でも多くの命を守るために自分ができることに気付く。

見直しポイント

【第1・2次】（7時間）

課題 西日本豪雨ってどんな災害だったんだろう？

個別の問い

- 風水害って何？
西日本豪雨災害ってどんな災害？
西日本豪雨災害について交流しよう。

保護者・区長さん

(しかけ) 早瀬地区の被害について、地域の保護者や自治会の区長さんから話を聞いたり、写真などの映像で説明をしていただき、詳しい被害について知る。

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
・解決の道筋がすぐには明らかでない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
・活動をこなすだけになっていないか。
・児童生徒から問いを生み出すしかけがあるか。
・学習したことを表現する場を設定しているか。
③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
・第1次だけで構成していないか。
・第1次のまとめと第2次の課題設定がつながっているか。